

新体操女子

2009～2012年版(財)日本体操協会競技規則・採点規則・シニアルールを適用する。

総則

3. 採点方式

3-2-1 点数の配分

難度(D)の審判

身体の難度(D1) : 0～10.00点 (加点法)

手具の難度(D2) : 0～10.00点 (加点法)

Dの最終得点=D1およびD2の平均点=最高10.00点

芸術(A)の審判 0～10.00点

実施(E)の審判 0～10.00点

3-2-2 採点

最終得点は3つの合計得点によって与えられる。

難度(D) + 芸術(A) + 実施(E) = 30.00点満点

個人演技

1. 総則

1-1-1 各演技において、最高12個の難度を有することができる。

1-1-4 各手具の必須の身体グループ(GCO)に属する難度は、以下のとおりである。

- ・12～10個の難度を有する演技では、少なくとも8個のGCOの難度
- ・9個以下の難度を有する演技では、少なくとも6個のGCOの難度
- ・必須ではない身体グループ(GCNO)は最高4個の難度を選択することができる。

1-1-5 フープの演技は4つの身体グループそれぞれから少なくとも2個、最高で4個の難度をとりいれなければならない。

団体演技

1. 総則

1-1-1 各演技において、最高14個の難度を有することができる。

1-1-3 交換の難度は、最低6個必要である。

【得点の配点(30点満点)】

難度(D) 10点満点(D1及びD2の平均点)		芸術(A) 10点満点	実施(E) 10点満点
身体の難度(D1) 10点満点	手具の難度(D2) 10点満点	基礎構成	
「個人」－手具の熟練度の要素を伴う ・最高12個の難度 ・必須難度(GCO)の数は 10～12個の難度の場合－最低8個 9個あるいはそれより少ない場合－最低6個 ・必須でない難度(GCNO)の数は 異なったグループから自由選択 最高4個 ・フープの演技は4つの身体グループの 全てから最低2個・最高4個の難度 「団体」－手具との関連をもつ ・最高14個の難度 ・交換難度は最低6個 (加点)	・投げを伴う熟練度 ・投げを伴わない熟練度 ・手具の独創性 ・プレアクロバット要素 ・リスク要素－最低3回 (個人) ・選手間の関係リスク(団体)	・伴奏音楽 ・振り付け ・身体要素の選択 ・手具要素の選択 ・多様性 ・選手間の関係－最低5要素 (団体) ・フォーメーション(団体)	・音楽と動き ・身体の技術 ・手具の技術 ・同時性とハーモニー (団体) ・フォーメーションと移動 (団体) (減点)
	(加点)	(減点)	

高体連ルールについて

1. 許容について

①D1(身体の難度)について

団体・個人ともにシニアルールどおりとする。ただし、団体においては全員が難度を実施すること。3名以上の選手が身体の難度を完全に実施し、他の1～2名の選手が身体の難度を限りなく近い形で実施した場合も難度として認める。

②リスクについて

個人の演技には、最低2回以上の「リスクの実施」が必要である。

③団体のリボン

団体のリボンの長さは5m50cm以上とする。

2. 審判員の得点計算

最終得点を出す。

3. 服装について

①レオタードについては日本体操協会採点規則を適用する。

②練習着も含め、セパレートタイプのレオタードは禁止する。

③化粧・髪飾り、ピン等の光るものの使用禁止。(リボンを含む)

④マークはレオタードの柄と区別がつくように、第Ⅰコール、第Ⅱコールで確認する。

⑤マークは学校名又は校章とする。(校名は略称でも可能。)但し、頭文字のみは認めない。

⑥マークを付ける位置については、ウエストラインより上とする。

⑦服装減点…0.2(個人) 0.5(団体)

《同点順位の決定方法について》

(A) 団体競技

1. 実施得点(E)の最終得点の高いチームを上位とする。

2. (上記1)において同点の場合、最高と最低の実施得点(E)を除くことなく全ての審判の実施得点の合計点が高いチームを上位とする。

3. (上記2)においても同点の場合、芸術得点(A)の最終得点の高いチームを上位とする。

4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任。(該当監督による抽選)

(B) 個人競技

1. 2種目の実施得点(E)の最終得点の合計点が高い選手を上位とする。

2. (上記1)においても同点の場合、最高と最低の実施得点(E)を除くことなく全ての審判の2種目の実施得点の合計点が高い選手を上位とする。

3. (上記2)においても同点の場合、2種目の芸術得点(A)の最終得点の合計点が高い選手を上位とする。

4. (上記3)においても同点の場合、主催団体に一任。(該当監督による抽選)

審判編成(案)

〈団体・個人〉

	1審	2審	3審	4審
D1	技術部	技術部 ・ ブロック	ブロック	開催県
D2	日本体操協会		ブロック	開催県
A	日本体操協会		ブロック	ブロック
E	技術部		ブロック	開催県
コーディネーター・ジャッジ(2名)			開催県	
線審(2名)			開催県	
計時(1名)			開催県	
補審(2名)			開催県	